



学校だより

平 30 年度 7 月号
平成 30 年 7 月 2 日
さいたま市立大谷口中学校

[学校教育目標] かしこく 美しく たくましく

「この一球は絶対無二の一球なり」

校 長 柳澤 登紀男

体育祭、通信陸上大会、市中学校総合体育大会、3年生の修学旅行…それぞれの行事や大会で、生徒たちは素晴らしい成果を収め、いよいよ1学期も最終月となりました。7月2日から開催される水泳と陸上競技を最後にさいたま市中学校総合体育大会が終了します。また、6日（金）には、1年生・2年生が事前学習や準備を進めてきた校外学習が上野・浅草、鎌倉で実施されます。先に終了した中学校総合体育大会では、最後の大会となる3年生を中心に、どの部も全力で挑みました。県大会への出場叶わず悔しい思いをした人もいるかも知れませんが、正々堂々と最後まであきらめずに戦った自分に誇りをもってほしいと思います。

大会期間中、教頭と分担し会場に応援に行きました。生徒を応援していると、自分の学生時代の部活（軟式庭球）と共にある言葉が思い出されます。

この一球は絶対無二の一球なり
されば身心を挙げて一打すべし
この一球一打に技を磨き体力を鍛へ
精神力を養ふべきなり
この一打に今の自己を発揮すべし
これを庭球する心といふ



テニスプレーヤーの間で有名なこの言葉は、早稲田大学庭球部OBの福田雅之助さん（1922年第1回全日本選手権優勝、1923～25年「デビスカップ」日本代表、1924年ウィンブルドン大会、オリンピック・パリ大会出場、著書も多数残し日本のテニスの発展に大きく貢献した）が同部に贈ったものです。自らもウィンブルドンに出場しの際に錦織選手を指導した松岡修造さんも引用しています。

私は、中学校時代部活の先輩のラケットカバーに書かれていたものを見たのが最初、自分では高校・大学時代に、炎天下でのきつい練習の時や、リーグ戦の試合前「プレッシャーに押しつぶされまい」と、心の中でこの言葉をつぶやいた記憶があります。教員となり、部活の顧問として生徒に「練習の一球こそ大切にしないさい。」と引用したこともありました。

私はこの言葉について、「一球」「一打」を他の語句で置き換え「…する心構え」として、ぜひ今後も大切にしたいと考えています。子どもたちが、生きること、生活すること、学習することなどのすべてにおいて、「基礎・基本」を^{ないがし}蔑ろにせず真摯に向き合い誠実に取り組む姿勢を大切し、「凡事徹底」することが大切だと考えています。日々の学校生活での様々な経験の積み重ねで養った力、それを発揮する場が定期テストや部活の大会であったり様々な行事であったりします。その成果や課題を今後どう生かすかが重要です。これらの経験すべてが、生徒たちに将来様々な困難を乗り越えたくましく生きていくための揺るぎない力をつけることとなると信じ指導してまいります。地域の皆様、保護者の皆様には、たくましく成長していく生徒を、今後とも見守り支えていただきますようお願い申し上げます。

7月11日は開校記念日です。今から43年前の昭和50年、浦和市立大谷場中学校から分離独立し浦和市立大谷口中学校が開校しました。同年に举行された校舎の落成式の日を本校の開校記念日としました。

現在、保護者や地域の皆様の中にも本校の卒業生がたくさんいらっしゃると思っています。地域やPTAの会合などでお会いする方々からも、当時お世話になった先生のことやなつかしい出来事などをお聞きします。その一言一句に大谷口中への「愛」が感じられます。本当にありがたく思います。多くの方々によって築かれてきた「伝統」をしっかりと受け止め、さらに輝く大谷口中となるように、今後も努力してまいります。